

CIGS 榎田健児氏ワークショップ

「加速する AI: もうすぐそこに来ているディスラプション:
-トランプ政権下の社会ロジックを踏まえて日本のチャンスと課題を模索-」

日 時 2017年2月28日(火) 15:00-17:00
会 場 キヤノングローバル戦略研究所 会議室3
(東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル11階)

講 師 榎田 健児
(米国スタンフォード大学アジア太平洋研究所リサーチアソシエイト、
キヤノングローバル戦略研究所 International Research Fellow)

モデレーター 栗原 潤 (キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹)

言 語 日本語

ワークショップ概要

人工知能 (AI) の飛躍的な進歩で、自動化が可能な人間の活動領域が加速的に広がっている。AI は人類に多大なる影響を与える可能性を秘めているが、そうした時代はもうすぐそこまで来ていると言えよう。すなわち AI は所謂「シロモノ」となり、誰でも使えるようなツールとして提供される時を迎えるのだ。AI は豊富なコンピューティングパワーとデータをリソースとして発展するため、将来は如何なるデータを如何なる分野・場所から取り込むのかという点に関して市場競争が展開され、新たな価値創造の模索が進んでゆくと考えられる。AI と労働の関係の政治的要素、そしてロースキルな人材でハイスキルな仕事をこなせるような Intelligence Augmentation (IA) など、様々な観点から、日米の AI の発展の可能性と産業、経済に与える影響を模索する。

プログラム

15:00-15:10	イントロダクション 「本研究セミナーの概要の説明、スピーカーの紹介」 栗原 潤
15:10-16:00	セッション I 「加速する AI: もうすぐそこに来ているディスラプション:-トランプ政権下の社会ロジックを踏まえて日本のチャンスと課題を模索-」 榎田 健児
16:00-16:50	セッション II 質疑応答と討論 モデレーター: 栗原 潤
16:50-17:00	閉会の辞 栗原 潤

講師紹介

榎田健児氏の略歴等

<http://www.kenjikushida.com/>

http://www.canon-igs.org/fellows/kenji_kushida.html

所属：

スタンフォード大学アジア太平洋研究所日本研究プログラム リサーチアソシエート
Stanford Silicon Valley - New Japan Project プロジェクトリーダー
キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow
Research Affiliate, Berkeley Roundtable on the International Economy

学歴：

2001年6月 スタンフォード大学：経済学部、東アジア研究学部卒業（学士）

2003年6月 スタンフォード大学：東アジア研究部、修士課程修了（修士）

2010年8月 カリフォルニア大学バークレー：政治学部、博士課程修了（博士）

職歴・著書：

2010年9月 スタンフォード大学アジア太平洋研究所ポストドクトラル フェロー（～2011年7月）

2011年8月 スタンフォード大学アジア太平洋研究所日本研究プログラムリサーチアソシエート
Stanford Silicon Valley - New Japan Project プロジェクトリーダー

2016年1月 キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow

東京のインターナショナルスクールを経てスタンフォード大学で経済学と東アジア研究を専攻、カリフォルニア大学バークレーで政治学博士を修得後、現職に就く。

情報通信やクラウド、政治経済分析を中心に研究。

日本向けの一般書は『バイカルチャーと日本人—英語力プラス α を探る』（中公新書ラクレ）、『インターナショナルスクールの世界』（扶桑社、キンドル電子書籍）など。